

令和5年度第3回練馬区区政改革推進会議 議事概要

日 時	令和6年3月4日(月) 午後6時30分～8時30分
場 所	練馬区役所本庁舎5階 庁議室
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>第3次みどりの風吹くまちビジョン(案)について</p> <p>第3次みどりの風吹くまちビジョンに係る数値目標および重要業績評価指標(案)について</p> <p>公共施設等総合管理計画〔実施計画〕・公共施設等総合管理計画〔追補版〕(案)について</p> <p>少子化問題について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉 会</p>
配付資料	<p>資料1 - 1 第3次みどりの風吹くまちビジョンに寄せられた意見と区の考え方について</p> <p>資料1 - 2 第3次みどりの風吹くまちビジョン(案)について</p> <p>資料1 - 3 第3次みどりの風吹くまちビジョン 基本計画・アクションプラン〔戦略計画〕(案)(たたき台)</p> <p>資料2 - 1 第3次みどりの風吹くまちビジョン(練馬区版総合戦略)に係る数値目標および重要業績評価指標(案)について</p> <p>資料2 - 2 第3次みどりの風吹くまちビジョン(練馬区版総合戦略)に係る数値目標および重要業績評価指標(案)(たたき台)</p> <p>資料3 - 1 公共施設等総合管理計画〔実施計画〕(令和6～10年度)(素案)および公共施設等総合管理計画〔追補版〕(素案)に寄せられた意見と区の考え方について</p> <p>資料3 - 2 公共施設等総合管理計画〔実施計画〕(令和6年度～10年度)(案)および公共施設等総合管理計画〔追補版〕(案)について</p> <p>資料3 - 3 練馬区公共施設等総合管理計画〔実施計画〕令和6年度(2024年度)～令和10年度(2028年度)案(たたき台)</p> <p>資料3 - 4 練馬区公共施設等総合管理計画〔追補版〕案(たたき台)</p> <p>資料4 少子化問題について</p> <p>参考資料 練馬区人事・人材育成改革プラン</p>
出席委員 (名簿記載順 ・敬称略)	庄司 昌彦、相澤 愛、上野 美知子、中田 亘伯留、市橋 宗一郎、岡本 敬子、今田 裕子、吉田 威朗
欠席委員 (敬称略)	沼尾 波子

区出席者	副区長 宮下 泰昌 副区長 森田 泰子 教育長 堀 和夫 特別参与 三枝 修一 専門調査員 斉藤 睦 企画部長 佐古田 充宏 区政改革担当部長（企画課長） 佐川 広 区政改革担当課長 河野 一真 財政課長 宮原 正量 情報政策課長 小沼 寛幸
------	--

## 1 開会

## 2 議題

### 【委員長】

次第に従いまして、2 議題に入ります。

議題 ~ に関して資料 1 ~ 3 が示されていますので、事務局より説明をお願いします。

### 【企画課長】

資料 1 ~ 3 説明

### 【委員長】

事務局から説明がありました。

ここで、前回、区長が御欠席でしたので、第3次ビジョンについて補足の御発言があれば、お願いいたします。

### 【区長】

発言の機会を与えていただき感謝申し上げます。

私がこの区政改革推進会議を設定しているのは、決まり切った議論をするためではありません。そのような会議であるならば、開催する必要はないと思っています。私も本音で話しますので、皆さんにも本音で話をしていただきたい。ただし、あの人がああ言った、こう言った、そういう揚げ足を取るようなことはやめていただきたい。そのルールの下に、お互いに腹藏なく本音で話をしたいと思っています。

私が今、一番心配しているのは国政です。これまで歴代の政府が赤字国債に依存した財政運営を繰り返してきました。これを何とかストップしないと、日本は沈没してしまいます。それがもう目の前に迫って来ていると思っています。そういう視点で、基本的にいろいろなことを考えていますので、国の在り方、都の在り方、区の在り方に、ぜひ率直な御意見をいただければと思っています。よろしくをお願いします。

**【委員長】**

ありがとうございました。

それでは、議題 ~ を通して、委員の皆様から御意見などがあれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

**【委員】**

介護保険の今後の見通しが甘いのではないかと思いました。あと、娘と一緒に住んでいると、保険制度がなかなか運用できない問題もあります。そういうことを踏まえて、資産要件等も、もう少しシビアに見直すべきではないかと思います。

**【区長】**

介護保険制度は、もう20年以上前になりますが、私が都で福祉局長をしているときに国が導入して始めました。ドイツに倣って介護保険を採用したのですが、アジアや世界を見ると、まだまだやっていないところがたくさんあります。そういう意味で言うと、日本は完全に経済が下り坂になり始める前に介護保険を導入しましたので、何とか滑り込みセーフだったと思います。

それをもっとシビアに見ていかななくてはいけないのはおっしゃるとおりですが、今お話があったのは、資産所有者にもう少し重く負担をしてもらおうとか、そういった趣旨ですか。

**【委員】**

家族に求め過ぎなのです。いわゆる家族介護を主体とした介護保険の制度になっています。家族を助けるための制度だったのに、それがいつの間にか家族がいるから制度を利用できないということになっています。特養がそうで、ポイントで優先順位をつける制度になっています。練馬区は激戦区で、見回しても、なかなか入れるところがありません。

安心できる一人暮らしが今後したいと思っていますが、お金がなければ生きていけません。日本の介護制度は、確かに間に合って、初めは夢のような制度だったのですが、このようなことを考えなければいけなくなってしまっているのです。

**【区長】**

一緒に暮らしている家族に負担がかかるということですか。

**【委員】**

その通りです。なので、私は今まで娘と暮らしていましたが、一人暮らしすることにしました。

**【委員長】**

私も大学院の修士論文で、介護保険について書きました。確かに、最初は家族の負担をこれで楽にするのだと、批判がありつつも市場化して楽にということでした。ただ、家族の負担が徐々に増えてきていることは、確かにあると思います。全体としてはまだ上手く回っているように見えても、家族単位で見るとしわ寄せが出てきているのではないかと

うことかと思えます。

あとは、担い手も大変になってきていますよね。

#### 【委員】

介護保険の制度は国が作っているの、区として何かするのはなかなか難しい面はあると思います。

同居家族がいると使えないサービスも多く、生活支援はほとんどしていただけない。それがとてもおかしいと私も現場にいたときに感じました。一人暮らしになった方がサービスを受けられるという、おかしいことが起こります。

ビジネスケアラーという言葉がありますが、家族といっても皆さん働いています。日中独居という言い方をしますが、家族がいても、昼間は一人暮らしの方、特に認知症状のある方は、見守りが必要なのにサービスが割と使えないのです。なので、お金がかかってでも保険外のサービスを利用する頻度が高まっていると聞きます。そうすると、お金もどんどんかかってしまう。子育てと似ていると思いますが、何のために働いているのかわからなくなります。本当にこの問題は大変で、国が考えるべきだと思います。

練馬区は、街かどケアカフェなど、相談窓口がたくさんあるのは安心できます。専門職が手を出せない部分を、地域で受け取るなど、そういうことが少しでもできる区であり続けてほしいと思っています。

#### 【区長】

ありがとうございます。行政はどうしても制度の運営だけに目がいってしまうところがありますので、実感をもっと大事にして、これから考えていきたいと思っています。

#### 【委員】

このビジョンを一体何のために作っているのかという出発点として、資料1 - 2の見開きで、「10～20年後のまちの姿」を分かりやすく入れているのかと思います。左上に「みどりや農に囲まれた都心に近く住みやすいまち練馬」とスローガンのような形で置かれているのだと思うのですが、この言葉自体は、本当にそのとおりだと思います。

ただ、資料1 - 3の8ページのグランドデザイン構想の実現という記載の中で、目指す将来像が、どうしても見えにくいところがあります。グランドデザイン構想のエピソードをどこかに載せてはどうでしょうか。それを目指して、これまでいろいろなことを改革し、プランを立てているのだというところを出発点にしていただきたいと思っています。

もう一つは、これまでもいろいろなことを改革し積み上げてきて、様々な行政メニューもできてきていると思うのですが、例えば子育ての分野で、かえっていろいろなメニューがあり過ぎて一区民からすると、そこにたどり着くのが難しいということもあると思います。思い切った具体的な提案として、子育てコンシェルジュを区役所に何名か置き、そこに連絡すれば、どんな状況の子育てを抱える方もある程度の解決策が見えてくる、そこに連絡すれば安心できるような窓口を設置するというのは、一つあるのではないかと思います。

このビジョンを逐一読む区民はなかなかいないはずですし、いろいろなメニューがある

けれども、それにたどり着けない思いをしている区民もたくさんいると思います。ただ、それを見つけるために、いろいろな窓口を探したり、人に聞いて回ったりするのも大変だと思うので、区のここに一つ連絡すれば、あなたの状況はこういったメニューが利用できますとか、こういうことはできるけれども、こういうことができないということを教えてもらうことができる区だと、すごく安心感があると思います。そういう一区民が行政メニューにアクセスしやすい何か画期的な方法というのを、一つ検討していただけたらと思います。

#### 【委員長】

大きく2点挙げられました。一つ目は、ランドデザイン構想にあるような、目指すものを分かりやすく説明したものがあつた方がいいのではないかという御指摘だったと思います。このビジョンで施策の柱がそれに当たるのかと思いますが、目に入りにくい感じはするので、その辺りについて聞かせていただけますか。

#### 【区長】

最初から、どうしたら一番いいのだろうとずっと考えていました。行政は、計画を作ったら満足してしまうことが多いですが、住民から見たらそこがスタートです。それをまず分かりやすくするために、ランドデザイン構想を作ろうとしました。そうしたら、今度はランドデザインとビジョンとの連結が上手くいかないという問題が出てくるわけです。

もう一つは、区民の方が相談したいところを探すにしても、どこに行ったらいいのだろうと、直ぐには分かりにくいということをよく聞きます。また、区報を見ても、どこを見たら直ぐに把握できるのか分からない。そういう話もよく聞きます。これは真正面から考えなくてはなりません。

いいアイデアがあつたらぜひ教えてもらいたい。一番大事な問題だと思います。

#### 【森田副区長】

高齢者の場合、今は地域包括支援センターがあり、担当のエリアも決まっています。まずはそこに相談ということで、まだなかなか認知度が高くないという問題もありますが、分かりやすくしたつもりです。

お子さんの場合、今は、まず妊娠をしたときに、担当の保健相談所の保健師が面談をして、いろいろと御家庭の状況を伺い、子育てのプランのようなものを作っていくという役割を担います。その後は、「子育て支援アプリ」により、様々なサービスをお知らせしていきます。アプリは、来年度から実施します。

また、子ども家庭支援センターという子育ての支援機関があり、そこにはすすくアドバイザーという、まさにコンシェルジュを担う専門職を配置しています。ただ、相談先はより明確になった方がいいというお話はよく伺います。窓口はどこですかと聞かれたら、基本は子ども家庭支援センターや保健相談所です。その両方がそれぞれの役割を担っているので、妊娠期から子育て期に至るときに、そこをもう少し分かりやすく御案内できるようにしたいとは思っています。その両者の連携として、保健部門と児童福祉部門がもう少し一体的な組織になるよう、来年度から子ども家庭支援センターに統括するような形に、

見直しをしようとしているところです。コンシェルジュという名前ではないですが、それに相当する役割を区の専門職が担えるように、もう少し分かりやすくお伝えできるといいと思います。

#### 【区長】

情報のレベルがいろいろとあると思います。110番や119番レベルの話もあれば、どこかのいい演劇を見たいという話もある。様々な緊急度や重要度でレベルがありますので、少し仕分けをしないと難しいと思います。全部同じ情報レベルで、同じように情報が流れる、そういう組織はあり得ないわけです。

恐らく、内容も仕分けができます。それこそ保育園・幼稚園から始まり、学校や勉強する場、それから身近な問題ですが保健医療など。コンシェルジュとまで言えるかどうかは分かりませんが、その仕分けに従ってレベルを作ってやっていくのでしょうか。

#### 【委員】

今言われた二つ、三つぐらいのところにたどり着くのも面倒くさい、分からないという人がいると思います。まず大きな窓口が一つあり、そこで仕分けしてもらおうというイメージがありがたいと思います。例えば、子ども家庭支援センターで、次はそこに行けば分かりますよとか、そういう御指示がいただけるといいと思います。とにかく、ここに連絡すれば解決できるという何か大きなものがあるといいと思います。

#### 【森田副区長】

今は、妊娠届を出して母子手帳をもらうときには、必ず保健相談所の保健師と面談するシステムになっています。そのときに、区にはこういう窓口があるということをきちんとお伝えすることが大事だと思います。ただ、子育てに関する不安や悩みというのは多岐にわたります。まずファーストタッチとして、いかにいろいろな支援メニューに結びつけていけるかが大事なことだとお話を伺っていて思いました。

#### 【委員】

窓口に行くまでの過程で、いわゆる受け身の人たちが増えていると思います。その受け身の人たちをも網羅できる仕組みというのは難しいと思いますが考えていただきたいと思っています。

#### 【委員長】

例えば、マイナンバーカードの交付の促進では、ショッピングセンター等にブースを作っていました。なので、子育て関係であれば、そういう人たちがいるところ、来そうなどところに出て、ファーストタッチを作るやり方もあると思います。子どもたちのところに出て行き説明をしてみるなど、役所の窓口で待っているだけでなく、出て行くやり方もあるということですよ。私も賛成です。

### 【区長】

委員が言われたように、そこへ行けば全部話が通じるというのは理想的な形です。大変魅力的なアイデアだと私もずっと思っていますが、実務化を考えると、なかなか安請け合いです。

考えてみますが、ぜひ、いいアイデアがあったら教えていただきたいです。

### 【委員】

私は、世田谷区で居宅のケアマネジャーをしていたことがあります。世田谷区は地域包括支援センターが商店街の中にあります。杉並区もそうです。練馬区は、今でこそ街かどケアカフェのように割と行きやすくなりましたが、以前はデイサービスや特養の奥など、どうやって行くのかというところにあり、驚きました。

世田谷区では、高齢者、障害者、お子さんの窓口を一つにまとめる話がありました。その後に私はやめてしまいましたので、今、実際にどうなっているか分からないですが、とにかく、あそこに行けば何か分かるということが求められているため、そう変わろうとしたのだと思ったのを思い出します。一つの施設の中にそれぞれの専門職の方がいれば、区民としては助かると思えました。

### 【委員】

区民からの問合せを業務的にどう受けるかという観点で言うと、対応方法としては、集中と分散の大きく二つに分かれると思います。それも結局、時代ごとに繰り返していて明確な答えはないと思うので、それを機動的に変えられるような窓口体系や設備の置き方になると思います。

コンシェルジュとして、経験や知識が豊富な職員をたくさん置くことは難しいので、その辺りのバランスが必要だと思います。ここで答えを出すのは難しい話題ですが、方向性について例えば、資料1-3 34ページに掲載されている分野ごとに分けて、ここに関わる人たちで集まり、デザインシンキングを試してみるのも一つの手だと思います。

あとは、練馬区に来られた人も、もともといる人も含めて、スマホを持っている人であれば、区のポータルのようなものからニュースや交通情報、天気予報を見たりして情報を得るという形も、一つ方法論としてあると思います。

### 【委員長】

私は、行政の情報提供や情報発信について、いろいろな自治体のお手伝いをするのもあるのですが、最近だと、スーパーアプリ一つにまとめてしまうやり方もあります。

それから、子どもがいますとか、介護を受けていますとか、そういう自分の属性情報や関心があることを登録してもらい、それに関するニュースはメールやLINEで届くようにするやり方もあると思います。

### 【委員】

その際、デジタルでの情報提供とアナログの情報提供というものに差がないようにしなければならず、視覚的に整えなければいけないのは忘れてはいけないポイントだと思います。

す。

**【委員】**

ワンストップの窓口という観点で、大企業にありがちなコールセンター化をすると、それはそれで区民の不満はたまると思います。先ほど委員がおっしゃったように、資料1 - 3 34ページの六つの軸ごとにワンストップ窓口を作るのは、コールセンター化することには変わりないですが、すぐに打てる施策として、アプリを作るより手っ取り早くできると思いました。それをどんどん発信していけば、おのずと浸透していくはずなので、子育てのことはこの電話番号、このメールアドレス、この問合せフォームとするのもいいのではないかと思いました。

**【区長】**

なかなかここで答えを出すのは難しいので、問題提起として受け止めさせていただいて、しっかり考えてみます。ぜひ皆さんの意見もください。よろしくお願いします。

**【委員長】**

資料1だけでなく、資料2と資料3については、何か御意見はありますでしょうか。

**【委員】**

東大泉敬老館がJ A東京あおば東大泉支店跡施設に移り、街かどケアカフェ、地域包括支援センターに機能転換するとありますが、やすらぎシティにある東大泉の地域包括支援センターが移るということでしょうか。

**【企画課長】**

ゆめりあにある地域包括支援センターが移転し、併せて同時に東大泉敬老館を機能転換するという形で、街かどケアカフェを新たに設置するという意味です。

**【委員】**

私は街かどケアカフェを運営しており、新たにこの街かどケアカフェが近くにできると、これから連携できるのはとてもうれしいので、いろいろとコンタクトを取っていきたいと思っています。

移転はいつ頃になるでしょうか。

**【企画課長】**

令和7年度に運営を開始します。

**【委員】**

ありがとうございます。

戦略計画6で元気高齢者の活躍と健康づくり・フレイル予防の推進とあります。リタイアした人が活躍でき、しかも、練馬区が懐を痛めないものが何かないかと考えたのですが、

厚生労働省がやっているボランティアポイント制というのを見つけました。

いろいろな問題点やよし悪しがあるとは思いますが、商店街等で使えるボランティアポイント制というのを、練馬区でも取り入れていただけたらすごく分かりやすいのかなと思います。

**【委員長】**

ポイントは使うこともいいと思いますが、単にたくさん貯めた人を表彰してあげるだけでも、お金がかからずにやる気を引き出せると思います。

**【委員】**

資料1 - 1や3 - 1の一問一答は、子どもからの意見に対しても真摯に答えていると思います。例えば学校に配ったり、SNSで発信したりすることは考えていますでしょうか。というのも、区として公式に、子どもから寄せられた意見に率直に答えているところはあまりないと思っており、子どもの意見にもきちんと答えていることを発信してもいいと思いました。

**【企画課長】**

この回答については、今回、本当に苦心して何とか作成したところです。

全小中学生にタブレットを配布しており、そこに今回の計画を発信し、意見を出してもらいましたので、回答もそれを通じて返そうと思っています。あとは、学校に作成した計画を送り、その結果についてお伝えしたいと思っています。

**【委員】**

ぜひ、区のSNS等でも発信したら面白いと思います。子どもの夏休みの自由研究に電話で答えるのは結構受けていると思うのですが、高校生などがもしかしたら興味を持ってくれるのではないかと思います。

**【委員長】**

公開の場に出してもいいのではないかといいことですね。

**【委員】**

そうですね。

**【委員】**

私は小中学校の講師をすることもありますが、それで、いつも答えることが同じで、もったいないと思っていました。

その学年にはまた来年同じことを話しているので、練馬区で、そういう場に私たち側からの回答もぜひ流してほしいなど、講師がみんなそうだとは限らないのですけれども、私はそう思いました。

**【委員長】**

それでは、次第に従いまして、議題の（４）少子化問題に入ります。資料４が示されていますので、事務局より説明をお願いします

**【企画課長】**

資料４「少子化問題について」 説明

**【区長】**

少子化問題について、若い人が結婚しないのは収入が低いからだとか、あるいは福祉サービスが少ないからだとか、そういう簡単な結論を出そうとする人たちがいます。その対策をすれば子どもが増えると言うのですが、実際、先進国は皆減っているわけです。

私は最近、議会で、少子化は言わば人類の歴史の到達点ではないかと言っています。それを正面から見ずに、ばらまきを繰り返せば子どもが増えるかのような幻想を振りまくのが一番困ります。そろそろ正面から向き合い、このままでは人口が減少し続けるので、８千万人を目標にしてそこで抑える方策を考えるべきだとか、そういう議論をしていかないと、的外れな政策に莫大なお金を使う国になりかねないと思っています。

その辺の議論をぜひ、この機会にお願いできればと思います。

**【委員長】**

資料４について、事務局から御説明いただき、区長から補足のコメントもいただきました。御意見はございますでしょうか。

**【委員】**

先日、娘と二人目の子をどうするかという話になりましたが、もう働きたいから一人でいいと言っていました。お母さんが子どもを見てくれるのかと言われ、私も無理と言い、保育園に預けても何か事故が起きるのではないかと、すごく現実的な話をしています。

提案ではなく私の意見ですが、一人一人結婚しない理由、子どもができない、産まない理由があるので、本当に難しく、子たくさんなどという言葉はなくなっていくのかなと思いました。

**【委員長】**

昔と比べて、一人の子にかける、かけなければいけない手間が大きくなっていると思います。放っておけばいいと言われたりもしますが、実際に子育てしている身からすると、皆やっているのだからうちもスイミングスクールに行かせるか、となるわけです。確かに一人増やすというのは、なかなか大変な決断だと思います。

**【委員】**

区長がおっしゃるように、もう時代は大分変遷してきていて、これを解決すれば何とかなるという単純な時代ではなくなっています。いろいろな状況に置かれた人が、いろいろな価値観を尊重しましょうという時代なので、少子化がある程度進行していくことは受け

入れざるを得ないと思っています。人口が減っていく中でやりくりしていくことを、これからは考えなければいけないと受け止めています。

ただ、そうはいつでも、従来からの自然な成り行きとして、結婚して子どもを産んで育てていく喜びが、人間の本能としてあることは否定できないと思います。そういったときに、今は不安感が先行している時代なので、安心して子育てできるという安心感が広まっていくことが大事だと思っています。

なので、先ほど申し上げたように、練馬に行けば子育てが安心してできるという何かがあれば、安心感が浸透していき、今までマイナスに向いていたものがプラスに向くきっかけになるのではないのかという希望は捨てていません。

子どもを産み育てる喜びは人間として大きく、区民の方もそうだと思うし、特に、練馬に今住んでいらっしゃる方、これから住もうという方は、子育て世帯も多いわけですから、不安ではなく安心感が先行するような土壌や雰囲気をつくっていくことが大事かと思えます。

#### 【委員長】

安心感は、言い方を選ばずに言えばお金だけではないと思いますが、その辺をもう少しよろしいですか。

#### 【委員】

その通りで、ばらまきでお金をもらえれば安心するということではないです。例えば、女性が何かあったときに仕事を休めない、誰が面倒を見てくれるのかということも含めて解決し、安心感が得られれば、子どもを産み育てる自信がつくと思います。

お金をもらったから解決することでもなく、困ったときに助けてくれる手だてがある、そういう安心感が一番かと思えます。

#### 【区長】

その安心感をもたらすのが公的サービスなのかどうかは、微妙なところですね。

#### 【委員】

そうですね。昔は大家族がいて、祖父母や働き手、子どもがいて、子どもの面倒は祖父母が見るし、祖父母の面倒はその家族で見るといって、家庭内で解決していた子育てや介護の問題が、今は全部、外でやりましょうということになっています。

もちろん、公的サービスでは限界があるのは当然のことですし、どうしてもそこで足りない部分はお金を出さなければならないこともあると思いますが、根本的な部分は公的サービスで賄えるところかなと思っています。

#### 【委員長】

資料1 - 3 1ページ目のグラフを見て思いましたが、練馬区は令和7年度よりも人口が増えていきます。令和27年、32年になっても今より多いということで、日本全体の人口減少というマインドとは実態が違いますね。

### 【区長】

練馬区もそうですが、地方とは異なり特別区は基本的に全部そうです。そういう意味では、人口増加が東京圏に集中していることは間違いありません。しかし、それを解消したらいいかとなると、そういうことではありません。そこを直視せずに、東京圏から地方へ財源だけ持っていこうという国の方針に疑念を抱いています。

ある人類学者が、若い人が子どもを産まないのは、人間は賢くなったら子どもを作らなくなるからだと言っていました。そういう面もあるわけです。良し悪しではなく、根本的な原因を冷厳に見なくてはいけないのに、初めから答えが決まった議論をするわけです。経済的な問題やサービスの不足など、そういうことを一切取っ払い、議論すべきだと私は思っています。

### 【委員】

うちの娘は二人とも独身で、このまま多分、結婚するつもりはないと言っていました。なぜかという、日本の国土を考えた場合、人口が増え過ぎていると言うのです。なぜ増加、増加というのか。増えた人口を支えるためにそう叫ばれているように思う。江戸時代の人口に戻したら日本は日本のみで賄えるようになるのではないか。そういう環境づくりや考えの変化が必要な時期になっているのではないか。先ほど区長がおっしゃったように、お金のバラマキには、私たちの税金がこんなに使われているのかと、二人してすごく怒っています。

若い世代の人もいらっしゃるので、その辺をどう思っているのか、お聞きしたいです。

### 【委員】

私の周りの話になりますが、25、6歳でそろそろ結婚をし始めるというのを耳にしたり、働きながら子どもを育てる経験がないけれどやってみようという前向きな議論が会食の場などでされていることは多いです。

ただ、これは賃金が割と良い会社に勤めている友人間での会話で、そうではないメンバーでの集まりなどのときに、子どもを産む、産まないとか、結婚する、しないというような話まで行き着かないのは事実です。

個人的見解ですが、過去は結婚して子どもを持つということが社会的な規範だったのに対して、今は、子どもを作る、作らない、結婚する、しないという選択肢が見えてきている移行期だと思っています。確かに、国という視点で見たら、日本の経済力も落ちていくし、子どもの数も減っていく中で、国力を維持する観点で言えば、今の若い人たちにお金を配るとか、いろいろな制度を整えて対策しなければという思いはあると思います。しかし、恐らく、今まさに若者は、時間をかけながら新しい価値観を作っている最中だと理解しています。国が大きな施策を打とうが打つまいが何かしら結果は出てくるのではないかと、あと五、六年すれば、新しい価値観の中での子どもとの関わり方が、出生率に表れてくるのではないかと個人的には思っています。

質問にお答えすると、私個人としては、そんなに少子化対策と言われることに対して嫌悪感はなく、新しいスタイルの中で自分なりの選択をしていければいいのではないかと、各々が規範に囚われずに選択していければいいのではないかと思っています。

**【委員】**

こども・子育て支援会議にも参加していた際によく話題となったのが、子育て支援ではなく、子預け会議になってしまい、いかにして子どもを預けるかという方策にどうしてもフォーカスしてしまっているということ。それを世の中が見ているので、これは大変だという意識が連鎖していると思います。

あとは、我々の判断する能力やリテラシーも上げていかないと、国がばらまきして良かったと終わってしまいます。そうすると、区長がおっしゃるように何も解決していないこととなります。少子化にしても、人口の増加にしても、出会いがあって、結婚して、出産して、子育てしてという、そのプロセスをきちんと我々が見せていくことができなくなっているのも一つポイントだと思っています。

**【委員長】**

子育てを身近に感じる場面が、昔より少ないということですか。

**【委員】**

そうですね。子どもと接するということも含めてです。そうすると、子どもを産むという発想になっていかない。

**【委員長】**

身近にあまり感じられないから、ベビーカーに対してみんな冷たくなっているとかありますよね。

**【委員】**

そうですね。個人的にはダイバーシティという言葉が、よく横の関係で言われますが、それ以前に高齢の世代から若年層まで縦のダイバーシティがあると思います。

練馬区は、それが満遍なく揃っていると思うので、もっと高齢者の方たちにも、地域の子どもの見守りや子育て支援に参加していただき、練馬区の中で上手くコラボレーションしていくことで、これから出会って結婚していく人たちにも自然と、子どもを産んで子育てしていきたいねと期待を持てるような空気感を醸成していく。何かハードというよりも、そこが非常に重要ではないかと思います。

**【区長】**

そういった話題は以前からありますが、今は、個人のレベルではなく社会全体としてきちんと子どもが循環して育っていくような社会を作るにはどうしたらいいか、そこが焦点だと思います。そのためにはどうしたらいいか。それはおっしゃるようにお金を配ることではない。では、どうしたらいいのだろうと、そういう議論が全然されていないことが問題です。

**【委員長】**

先ほど江戸時代の話がありましたが、人口構成が全く変わっています。国が少子化対策

と言っている理由の中には、高齢者が多すぎて子どもや若者が少ないという問題もある。高齢者に手厚くお金がかかっていることが問題という見方もある。税金を納めて、次世代を作るのは、若者ではないですか。

**【区長】**

それはそうだと思います。ただ、実際に高齢者の人口が多いので、それを突破するのは大変です。

**【委員】**

今、区長がおっしゃったように、それは事実で、投票率も若者はよくないことがはっきりと数値として出ています。誰の意見を反映させるかは、もう若者も分かり切っています。若者が全員投票したとて高齢者には及ばないことはもう分かっている、それはもう受け入れられないと思います。

**【委員】**

私も高齢者関係の仕事をしてきましたが、これから多死の時代に向かうので、人口比率は変わっていくと思います。今後の推移を見ていくこともありますが、子育てするにはとてもいい区だと聞きますので、そこは練馬区としてはいいのではないかと思います。

病気になった子どもを預けられるところがあって助かった、ということは実体験としてあったので、ばらまきとかではなく、そういったところがあれば助かるのかなと思います。

**【委員】**

私は、第二次ベビーブームの最中に生まれ、その頃は競争心が強く、とにかく目立つことに気持ちが向いていました。でも、途中からそういう状況は変わり、今の少子化はすなわち平和ということではないかと思っています。

私はケーキ店を営んでおり、昔は子どもたちが目を輝かせてケーキを見ていましたが、今は反応が薄くなってきていて、正直、寂しいものがあります。好きなものに何でも手が届いてしまう、興味を惹かれるものがたくさんあり過ぎてしまっているのかもしれない。

**【委員長】**

私も第二次ベビーブームの最後で、近い年齢ですが、確かにその頃と今は全然違うというのは感じますね。

**【委員】**

子どもが二人いるので、将来を思うと、本当に頑張っていかなければと思います。もう働くな、と言われてしまうのはつらいですね。

**【委員長】**

先ほど高齢化の話題もありましたが、これから高齢化のピークになるのは第二次ベビーブーマーが高齢者になったときです。第二次ベビーブーマーが元気で働き続けることは、

少子化対策になるかもしれないですね。

**【委員】**

私が子育てしていたのは20年ぐらい前ですが、そのときよりも女性にとっては、行政メニューも増えて働きやすくなっているはずです。配偶者の勤める企業も、今は育休なども拡充しているので、昔よりはよくなっているはずなのに、なぜかと思うわけです。

当該世代の収入が減っていることが客観的なデータとしてあると思うと、お金が足りないことに対して何らかの手だてが必要な気もしますが、お金だけでは解決しない。対象者の気持ちを前向きにする環境をつくるということのも大事だと思います。

練馬区にも区営住宅があると思いますが、例えば、若い世帯にとって住居費の負担は大きいので、家賃がかからないように、若い方に区営住宅に入ってもらうことで、お金のやりくりが難しい方たちを後押しするのはいかがかと思いました。

**【区長】**

区営住宅はもちろんあるのですが、例えば、今は新しいマンションが23区だと1戸当たり1億数千万円と言われていています。それをどうやって買っているのか、不思議に思います。私たちは若い頃、共働きであっても、マンションを購入するのは容易ではありませんでした。ところが、今は1億数千万円で売買されている。こうした話を聞くと、住宅の問題ではないのではないかと考えています。

**【委員】**

経済格差で日本が分断されているというか、収入が高い方たちも一定程度いるのは事実で、その方たちが価格を押し上げているという話だと思います。

**【委員】**

少子化問題は、日本の過渡期の1つだと思います。住宅問題では、娘が一人で住むにしても、練馬区は家賃が高いです。ワンルームでさえ5、6万円します。これを一人で賄うのは大変です

少子化問題、介護問題、医療問題、障害者問題、学校の学童など、いろいろな問題が、ちょうど過渡期だと思うので、もっと広い視点に立ち、ある程度距離をおいて見つめていくことが必要ではないかと、皆さんの言葉を聞いて思いました。

**【三枝特別参与】**

私は、第一次ベビーブーマーの最後の世代に当たります。第一次ベビーブーマー、第二次ベビーブーマー、それから現代の方たちと3世代を見てきました。

私が子育てをしたとき、これが第二次ベビーブーマーを産んだ世代になります。その当時の子育てを考えると、今の人たちは大変羨ましいと思います。

当時、私は北区役所の福祉事務所に勤めており、保育園の措置をしていました。それで、保育士さんの子どもを入れる保育園が見つからない。最優先で入れなければ保育園が詰んでしまう、そういった状況を経験してきました。

一体、世の中、なんでこんなに変わってしまったのだろうというのが率直な感想です。一つは社会全体が豊かになり過ぎたことがあるのではないかと。豊かになるということはお金がかかるということです。しかも、格差が生まれてくる中で、全員が同じようなことをやらなければいけないという強制力が働く。そうすると、どうしても一人の子どもに対する単価がどんどん上がっていきます。それが、経済的な問題として、所得によって出生率が違うという結果になっていると思います。

今、私の子どもたちが、子どもを育て始めています。実は、去年、孫が二人生まれました。うちの娘たちが、なぜ子どもを作る気になったのか、よく分かりません。ただ、一人目を産んだ後に、もう一人欲しいと言い出しました。それはなぜかと聞いてみたら、この子が一人っ子だったらかわいそうだろうという返事でした。

もう一人の娘も、去年、一人目ができました。その子どもを育てていて、子どもってこんなにかわいいものだと思わなかった、もう一人欲しいと、今、言い出しています。

そういった生活実感の中で、赤ん坊のかわいさ、成長を見る喜び、そういったものが伝わっていかないと、少子化は止まらないのではないかと。人間にとっての幸福というものにそこに見いだせるか見いだせないかというところが結論を分けていくのではないかと。そうすると、社会全体がそういった人間としての幸福を大事にし、物質的な幸福よりも、多少、優先させていく世の中にならないと、この問題は解決しないということが実感としてあります。

制度としては、どうすれば日本の少子化が止まるかは、私には分かりません。分からない中で何か模索をしているというのが正直なところです。

#### 【委員長】

今日、区長が問題提起されたのは、少子化対策をやり過ぎないというか、ある程度、順応することも必要ではないかという問題意識でしょうか。

#### 【区長】

ばらまきは、少なくとも良くないだろうということです。行うのであれば効果的に使わなくてははいけない。まずその方法があるのかどうかを考えていく必要がある。お金をばらまけば子どもが増えるかのような幻想ではなく、冷厳に見て、どの程度で少子化が止まり得るのか、その議論を始めなくてははいけないと思っています。

#### 【専門調査員】

私は子どもがおらず、子育てをしていません。

身近で、恐らく30代で初めて子どもを持ち、ベビーカーを押している親御さんたちを見ると、ある種の楽しくなさそうな、比較的、社会から疎外されて子育てしていると感じていらっしゃる方が多いような印象を持っています。

その人たちの思いがはっきりと固まって人に話せるようなことなのか分からないですが、ここに行けば、自分の状況についてアドバイスを受けられるようなものがあると大分違うと感じています。

私はなかなかお節介にもなれないので、そういう人に会ったときに、「あなたは何か悩

みがあるのですか」とか聞くわけにもいかないし、でも、そういう思いを持って生きていますので、そのことを多少解決してあげると、もう少し子育てしやすい社会になるのではないかと感じています。

#### 【宮下副区長】

私も子どもが二人いてそれぞれ結婚していますが、二人とも子どもを持っていません。自分の子どもと話をしていると、現実的に預ける場所がないとか、お金がないとか、そういうことではなく、どんなに社会が支援してくれたとしても、子どもを持てば必ず自分の時間を使わざるを得なくなる部分が出てきます。子どもを持つということの楽しさや喜びをあまり感じておらず、デメリットだけを感じ、子どもを作らなくてもいいと考えているように思います。

どうすればいいかは分かりませんが、子育てが喜びになるということ、もう少し実感させるようなことがないといけないと感じるところです。

#### 【教育長】

私は3人兄妹ですが、3人とも子どもは一人っ子です。そういった意味では、先ほど皆さんがおっしゃったように、一緒に育つことの楽しみというのがなかなか感じにくくなったと思います。

私の子どもが小さかった頃は、ベビーカーは畳んで電車やエレベーターに乗りなさいと言われました。今は公然と畳むことなく入れます。ですので、子育てが肩身の狭い思いをしなくてもよくなっているのです。

一方で、昔は公園デビューというものがありました。赤ちゃんをお母さんが連れてきて、公園で一緒に会ったらコミュニティが自然と出来上がり、一緒に遠足に行ったり、ハイキングに行ったりする。そういうコミュニケーションが発生したのですが、今は、逆に仕切られたくない、でも、公園デビューはしたい。そこでできたのが「おひさまびよびよ」というもので、これは官製公園デビューだと思います。

子育てに関する愛情は変わらなくても、子育ての仕方というのは、私が知っているだけの二、三十年の間に変わってきていると思います。ですので、行政としても、子育て支援の仕方を時代によってアレンジしなければいけないという使命はあると思いますが、もとはといえば、アクションを起こしていただくのは御家庭の話なので、何とかそれをしやすい状況にしなければいけないと思います。しかし、先ほど皆様方がおっしゃっているように、特効薬のようなものはない。どうすればいいのかも分からないし、お金さえもらえばできるというものでもないと思います。歴史の変遷の中で、子どもに対する愛情は変わっていても、子育ての仕方は変わり、それに合わせて考えなければいけないことがあると思います。確かに、子育てのプロセスを傍らで見るチャンスが間違いなく減っていることは事実なので、そういうアプローチも必要かと思っています。

#### 【委員】

先ほどのお話にあったように、子育ての幸せを感じるかどうかという精神論を抜きには語れないと思います。

では、行政がどこまでやるのかとなると、具体的には、コロナ禍で区内の保育園等に子どもを預ける保護者の勤務先企業に対し、区が手紙を作り、保護者から勤務先にそれを出していただきという取組があったと思います。それをこれに当てはめてやってみるのも一つの手だと思います。

私も子どもが二人いて、上の子は高校生ですが、毎日、国会のニュースを見て、ネガティブな印象しか持っておらず、どんどん気持ちが引いています。私は引くのではなく、入って自分たちで制度設計していくようにしていかなければ駄目だと、諦めるなど言っています。そういうことを、我々大人が促し、動機づけしていかなければいけないと思います。これも精神論なので、区の中で何らか議論の場を設けるとか、小学生にもパブコメの意見を求めたりという、すごくいい取組だと思いますので、これをもっと拡散していくことが必要です。

あと、皆さんが今日おっしゃったことをつなげていくこと大事なのかなと思いました。

#### 【森田副区長】

区の中でこういう話をするとき、私以外に女性がほとんどいないということが常なので、今日は多くの女性の方や若い世代の方もいらして、それぞれのお立場の意見が聞けて良かったと思っています。

私自身も、女は子どもを産むべきだと言われるのに、若い頃は反発していました。結婚したら子どもを産み育てなければいけないという考えはありませんでしたが、たまたま同じ職場にいた男性職員が、子育てが楽しくて子どもたちの自慢話を毎日のようにしていました。それがすごく楽しそうで、子どもがいるといいかもしれないと思った大きなきっかけになったので、そういうマインドが大事だと思いました。

同期の女性職員が多くいる中で、当然、私よりも先に子どもを産んでいる人たちがいました。その人たちを見て子育てが大変そうだというイメージしかなかったので、子育てはすごく楽しく、いいこともたくさんあるというメッセージを伝えていけるといいと思います。それはやり方をこれから工夫していけるのではないかと思います。

いろいろなサービスがあった方がいいというのもおっしゃるとおりだと思います。時代やニーズに合わせたことはしていかなければいけないと思いますが、最後は個人の選択の集積なので、なかなか難しいところはあるかもしれません。

特効薬はないし、お金をかければ何とかなるものでもないと思いましたので、それこそ、どこに人材や財源を集中して投入するといったのは、もう少しきちんとした議論ができるといいとつくづく思っております。

#### 【委員長】

森田副区長がおっしゃったように、いろいろな世代や立場、経験を持つ人が話すことはとても重要だと思いますし、区長が問題提起されたことは、考えさせられることだと思います。

お金をかければかけるほど効果が出るのであれば、かければいい訳ですが、そういうことでもないです。では、どこにお金をかけたらいいいのか、どれが無駄なのかをきちんと見ていかないといけません。異次元の少子化対策というのは気合いで言っているような感じ

で、あまり根拠はないわけです。なので、根拠に基づいてやれることをやりましょうということかと思いました。

#### 【区長】

こういう議論をすることが大事だと思います。国会や都議会、区議会でも本質的な議論がされていません。率直な本音の議論をきちんとできる場所を増やしたいと思っていますので、ぜひこの会議はそういう機会として一緒に頑張らせていただければと思います。よろしく願います。ありがとうございました。

#### 【委員】

今、率直に感じたことですが、答えのない問いを、例えば簡単に回答できるGoogleフォーム等を区報に載せるなどの方法で区民に投げかけることを、検討してみてもどうかと思いました。

恐らく、無責任な回答がたくさん来るとは思いますが、もしかしたらその中にヒントになるようなものが出てくるかもしれないし、年代別で少子化に対する意識の差が見えるかもしれない。

大きな問いに対しては、区としてもアクションを起こそうとしている姿勢を打ち出せませし、率直にいろいろな意見を聞けると思ったので、御検討いただいてもいいかと思いました。

#### 【委員長】

明確なアンケートというのは意義があるのですが、一緒に考えましょうという問いを投げて、自由記述で意見をもらうやり方も、議論が深まるかもしれないですね。御検討ください。

次に、次第の3 その他に入ります。事務局から何かありますでしょうか。

#### 【事務局】

事務局からは、特にございません。

#### 【委員長】

では、終了の時刻となりました。今年度最後の区政改革推進会議なので、私から、一言、挨拶を申し上げます。

今年度の区政改革推進会議は、初回に区長から、自由闊達に議論をしてほしいということと言われたのを明確に覚えています。それをどうしたらできるか考えていましたが、最後の最後で、少し片鱗は見えただかなと思い、委員の皆様、参加者の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

これで、本日の会議を終了したいと思います。皆様どうもありがとうございました。